

令和8年度 長崎大学教育学部附属小学校 学校だより

「らしき」輝く附属小



第8号 令和8年 5月22日(金) 校長 森内 秀学

声占いを超えて…



「校長先生、『声占い』当たりました！」
運動会の直後、いたずらっぽく私に話しかけたその子は、青組の子。「優勝おめでとう！」と声を掛けると、「ありがとうございます！」と嬉しそうに教室へ戻っていききました。

開会式で触れた、声の大きさに優勝を占う「声占い」は、やる気を奮い立たせるための私の思い付きです。そして、どの色の声が大きかったか、実際分かりませんでした。でも、この子も含めて子どもたちはきっと、自分たち



の声が大きかったに違いないと信じてがんばったことでしょう。勝敗を告げた後の悲喜こもごもの様子が、それを表していました。勝っても負けても、大きな学びがあったに違いないと思いました。

運動会が明けた木曜日、まだ運動会の余韻が残っている校舎の中で、大学2年生を相手に堂々と授業を公開する、教師と子どもたちの姿がありました(右)。授業で暮らしのリズムをつくっていく、本校ならではの姿だな、と感心しました。



競うときには大いに燃え、学ぶときには凜として向き合う。こうしたメリハリのある美しさも、運動会で学んだ一つかもしれませんね。



ソラマメむいて食べたよ(食育)

栄養教諭の一瀬先生と理科のコラボ企画「ソラマメの養分を調べ、むいて食べよう」が5年生を対象に行われました(左)。さやから豆を取り出したり、ヨウ素液でデンプンの有無を調べたりしました。翌日給食で食べたらいいしかったです！みんなありがとう！